

令和7年度 自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

岩手大学教学マネジメントセンター、岩手大学教務委員会

（責任者名） 山本 欣郎

（役職名） 理事（教育・学生担当）・副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムの修了要件は、「情報基礎A」（1年次前期）および「統計的機械学習実践」（3年次前期）の2科目4単位の修得をプログラム登録要件として、「基礎統計学」（1年次後期）、「統計学（検定・推定）」（2年次前期）、「環境経済論B」（2年次前期）から1科目2単位以上、「プログラミング基礎」（1年次後期）および「プログラミング入門」（2年次前期）から1科目1単位以上を含め、合計4科目7単位以上を履修することとしている。「情報基礎A」は人文社会科学部1年次の必修科目となっており、令和7年度末現在、プログラムを履修している学生は申請対象学年を母数とする100%の履修率となる。また、学生の履修状況（履修申告から課題の提出等）については、本学が導入しているWebClass（LMS）を通して、科目を履修している担当教員及び岩手大学教学マネジメントセンター並びに学務担当が把握することができるシステムとなっており、各授業科目の修得状況やプログラムの改善等についての審議を行っている。</p>
学修成果	<p>「情報基礎A」の授業評価アンケートでは、質問「意欲的に授業に臨みましたか」および「集中して授業を受けることができましたか」に対して、5段階評価で肯定的な回答（5と4）が56%および60%であった。また「基礎統計学」と「統計学（検定・推定）」の授業評価アンケートでは、質問「あなたは授業の目的や到達目標に近づくための努力をしましたか」に対して、「そう思う」、「やや思う」という回答がいずれの科目も90%を超える回答であった。これらの結果から本教育プログラムに対する学生の学修成果は高いものと判断できる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>「情報基礎A」では、前項目と同様のアンケート調査の結果、質問「履修を通じて知能や技能が身についたという実感がありましたか」に対して69%、質問「この授業のテーマや内容を学ぶ意義について理解できましたか」に対して75%が肯定的な回答であった。「基礎統計学」と「統計学（検定・推定）」では、質問「授業の内容を理解できましたか」に対して、それぞれ67%と64%が肯定的な回答であった。これらの結果から、学生の内容の理解度は高いものと判断できる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	<p>本教育プログラムの構成科目は、授業評価アンケートにて「後輩等に推奨したいか」という質問は設定していない。学修の更なる学びや有用感を問う項目のうち、「情報基礎A」では質問「授業内容は期待通りのものでしたか」に対して99%の学生が「期待通りの内容だった」、「期待以上の内容だった」と回答している。同様に「基礎統計学」と「統計学（検定・推定）」では、質問「授業の全体の構成は適切でしたか」に対して、受講したすべての学生が肯定的な回答となった。これらの結果から「後輩等他の学生への推奨度」については高い水準になることが期待できる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>全プログラムの構成科目のうち、1年次必修科目の「情報基礎A」は履修者数215名、人文社会科学部で開講している構成科目に関しては、1年次より履修可能な基礎統計学が40名、2年次より履修可能な統計学（検定・推定）と環境経済論Bがそれぞれ15名と36名であった。これらの科目については、次年度以降、年次進行に伴い履修者数が増加していくことが見込まれる。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムの修了生が卒業する令和9年度以降に、岩手県庁および企業等への卒業生アンケート項目に本プログラムの効果を問う設問を用意して外部の評価を受けつつ、その結果を踏まえてプログラムの改善に役立てるプロセスを検討している。</p> <p>岩手大学では、例えばNTTdocomo、岩手日報社等、様々な産業界の企業と連携協定等を締結して教育・研究を推進している。また、本学人文社会科学部では毎年30～40%程度が公務員へ就職していることから、県や市との連携を活かして、本教育プログラムに対する意見を求めていく。今後もこのような多くのチャンネルを通して、産業界からの視点を含めた本プログラムのPDCAを推進していく予定である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>授業評価アンケートにおける学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度に関する結果に内容に加え、「情報基礎A」では質問「授業内容の面白さ（興味深さ）についてどのように感じていましたか。」に対して、51%の学生が肯定的な回答となった。この結果から、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」について、一定の成果が認められる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>アンケート調査の結果、質問「授業中の説明や指示は、わかりやすいものでしたか」に対しては58%から82%、質問「板書・ビデオ・プロジェクター・遠隔配信等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか」に対しては86%から91%の学生が肯定的な回答となった。引き続き、WebClass（LMS）による事前資料配付等の充実を図る予定である。また、今後は急速に進展する生成AI等の新たな動向に適切に対応するため、教養教育に追加される「情報に係る選択科目」を活用するなど、本プログラムの充実を計画している。</p>